

○概況

令和6年3月末現在

【人口動態、地形、生活環境等の地域特性】 南区の面積は7区中5番目であるものの、人口は東区に次いで2番目に多く、人口密度も中央区、城南区に次ぐ3番目。昼間人口に比べて夜間人口が多い「くらしのまち」である。自然環境にも恵まれており、「ため池」は地域のオアシスとして散策コース等に活用されている。また、丘陵地が点在している。 【高齢者の状況（高齢化率や介護保険受給者状況）】 高齢化率が全市平均より高く、15.2%（大楠校区）から34.3%（弥永校区）まで差があり、各町内でも高齢化率の差が大きいところがある。 【社会資源（介護サービス事業所や医療機関、地域コミュニティの状況）】 医療機関は、基幹病院が3か所あること、精神科病院が5か所あることが特徴である。また、三師会を中心に、医療と介護の多職種間での連携した取り組み等が活発で、南区医師会では、在宅医療ネットワーク（平成11年～）認知症診療ネットワーク（平成24年～）、区民と医師との会（昭和51年～）などに取り組んでいる。	人口（人）	268,468
	高齢者数（人）	62,545
	高齢化率（%）	23.3%
	小学校区数 （自治協議会数）	25 (25)
	いきいきセンター 圏域数	11

○地域包括ケアに関する現状と課題

○ACPへの取り組み →南区では単身高齢者、認知症高齢者が今後も増加する見込みであり、認知症など様々な事由により、本人の意思決定支援が難しい状況が今後も増えていくと予測される。高齢者自身の自らの意思に基づいた生活が維持できるよう、早い段階からACPの取り組みが必要である。 ○認知症高齢者に対する理解促進 →家族の介護負担だけでなく知識不足から「身体拘束」等の虐待事例が増えている。 →本人が行う金銭管理や契約等の支援検討（成年後見制度の活用）や、医療・介護や権利擁護機関、金融機関など高齢者と接する企業等への理解促進を目的とした研修の実施が必要。 ○地域活動における担い手不足の深刻化

1. 令和6年度取組みの中で、特徴あるもの

取組内容

①地域包括ケアシステムの推進


- 医療・介護・地域の参画による圏域連携会議の開催
- 高齢者地域支援会議による地域課題の抽出と地域力向上
- 在宅医療・介護連携推進のため、区医師会等と連携し、多職種連携研修会充実に向けた支援
- 「地域の『きずな』づくり事業」において事業所ネットワークの活性化と地域貢献に向けた機運醸成
- 認知症支援充実のための各種取組みの実施
 - ・ユマニチュード講座によるやさしいまちづくりの推進
 - ・「認知症サポーター養成講座」「ステップアップ講座」の開催
 - ・ACP普及啓発の実施
 - ・もしバナゲームによる意思決定支援の推進
 - ・他機関・他分野連携の促進


②高齢者の権利擁護への取り組み

- 高齢者虐待における地域包括支援センター等との連絡、関係機関との連携、迅速かつ的確な対応
- 処遇困難事例進捗管理会議における虐待・処遇困難事例の進捗確認や虐待事案の振り返りの実施による、対応力の向上
- ケアマネジャーや介護事業所、医療機関スタッフなどの専門職を中心に、高齢者虐待を正しく認識するための啓発の実施

③健康寿命延伸に向けた取組みの推進

- フレイル予防のため「生き生き講座」「フレイル予防教室」「通いの場等の積極的関与」などの実施
- 社会参加や運動継続につながる「よかトレ実践ステーション」や自主活動グループの創出、既存活動の支援
- 生活習慣病予防、重症化予防の取組みの検討





2. 令和5年度の取組み状況

① 個別支援における成功事例、課題など（個別支援会議の傾向など）

認知症の方の地域での見守り方策、在宅継続のための日常生活支援方策、精神疾患の方への対応 等

個別支援会議開催状況 会議回数：93回（うち介護予防型個別支援会議22回）

② 住民同士の助け合い・支えあい活動

事業所ネットワークの連合体「南区いいともネット」による
認知症行方不明者声かけ訓練・捜索訓練の様子(柏原校区)



高齢者地域支援会議を活用した
認知症サポーター養成講座の様子(花畑校区)

高齢者地域支援会議
開催状況 会議開催校区(地区)数：11校区(地区)、延べ回数：29回
検討内容：現状、課題について意見交換し、地域で高齢者を支えるための解決策検討、取組み開始

③ 在宅医療・介護連携や多職種連携の推進に向けた取組み

● ACPの普及啓発

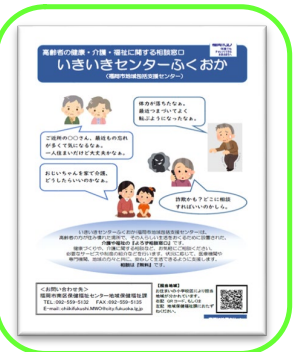
- ACPをテーマとした多職種連携研修会を開催
- 市民を対象とした「もしバナゲーム」講演会の実施
- 圏域連携会議にてACPをテーマとしたグループワークを実施

● 薬剤師会との連携

- チェックシートを活用した虚弱高齢者の把握
- 学会誌「社会薬学」への薬剤師会による報告：「複合課題を抱えた高齢者に対する薬局の役割－地域薬剤師会による支援ツールの推進－」
- 圏域連携会議への薬剤師の参加促進

● 南区歯科医師会との連携

- いきいきセンターやケアマネジャーなどが、「口腔ケアの必要性を理解し、知識を持つことで高齢者支援に役立てる」「歯科医師との連携のしかたを学ぶ」ことを目的に歯科講演会を実施
- 圏域内の歯科を訪問し、啓発チラシを用いて地域包括支援センターについての周知を実施



圏域連携会議
開催状況 会議回数：6回
検討内容：認知症・独居・キーパーソン不在高齢者への支援、ACPの取組み、高齢者虐待等

④ 区レベルの取組み（特徴ある取組み）

- ・地域包括ケア推進会議では過去3年間の各部会での課題と取組みの推移について共有し、残された課題についてグループワーク形式でそれぞれの視点からの意見交換を行った。
- ・「在宅医療・介護部会」と「権利擁護部会」は、共通テーマである「複合課題」に対する相互理解を深めるため、合同開催。「複合問題に『気づき・つながる』研修パッケージ」を活用した意見交換を行った。
- ・「生活支援・介護予防部会」では、校区の中の「団地」や「町内」等の小さなエリアの課題に絞った生活支援・介護予防の取組み事例を紹介し意見交換を行った。引きこもりがちな高齢者の興味をうまく引き出し介護予防に繋がる取組みを継続することの大切さや、事業所ネットワークとの連携した取組みの検討の必要性を確認した。

区地域包括ケア
推進会議開催状況 区地域包括ケア推進会議1回
部会 在宅医療・介護部会、権利擁護部会（合同開催）：1回、生活支援・介護予防部会：1回
検討結果等：市に報告する課題として「複合課題に対応できる分野を超えた多職種の相互理解と連携の強化」「適切な介入とアセスメント力の向上及び多職種による連携した支援」「地域課題に沿った生活支援・介護予防の仕組みづくり」

(2) その他、在宅医療・介護連携の推進に関する取組み、事業所ネットワークの活動等

取組み	具体的内容
多職種連携研修会	南区医師会が中心となり実施。訪問看護、ACP、口腔ケアについての講演であり、各専門職がそれぞれの立場で連携できることについて認識した。
市民啓発	ACPへの取組みとして、市民センターにて「今日から始める私の終活・人生会議～入門編～」として、もしバナゲームとマイエディングノートを用いた2回シリーズの講座を実施した。
認知症診療ネットワーク研修会	南区医師会が中心となり、研修会を1回実施した。
同一業種による協議会開催 ①南区歯科医師会 ②介護支援専門員 ③小規模多機能	①歯科医師会南支部役員会に区から出席し、歯科医師会と地域包括支援センターとの連携促進を行った。 ②南区ケアマネ会ではコロナ禍後初の全体総会を開催。また、地区南・南区ケアマネ会・地域包括支援センター・区の4者協議会を開催。 ③年4回連絡協議会を開催。
事業所ネットワークの活動	・地域の高齢者支援に関心が高い医療機関・介護等事業所や企業等の多様な主体によって構成された事業所ネットワークが区内に16団体結成され、南区全校区をカバーしている。 ・各校区のニーズや課題に応じて、認知症サポーター養成講座・ステップアップ講座の講師、行方不明者捜索・声かけ訓練、出前講座の実施、行方不明高齢者受け入れ体制構築、認知症カフェ開催、地域のお祭り等の設営・出店、地域活動時の送迎等に取り組んでいる。 ・活動支援として、定例会開催の働きかけや参加による機運醸成の働きかけ、事業所ネットワークの連合体「南区いいともネット」での情報交換会の開催を行っている。